《《《《《《《《 秋の叙勲 》》》》》》》》

喜びの受章者

瑞宝小綬章

前田喜晴氏

元伊達赤十字病院院長

「大変で苦しい時に、職員みんなが頑張ってくれた。私は病院の代表として、受章させていただいただけ」―。北大を1970年に卒業後、杉江三郎教授にあこがれ、第2外科に入局。倶知安厚生病院や横浜赤十字病院などを経て、79年からは伊達赤十字病院一筋に精勤。院長退任後も、健診センター嘱託医として今も支えている。

着任当時、圏内の人口は7万人を超えた。断らない救急体制を敷き、病床は常に満床。臨床外科医として夜間、休日返上で対応した。「大学に負けない治療、手術を目指した」と、腹部、胸部、外傷などの手術を一人で年間200件こなした。

これからも地域に恩返し

新医師臨床研修制度の導入を機に、大学の医師引き揚げが始まった。常勤医が半減し、数科で休診を余儀なくされ、経営赤字から一時はボーナスカットも。院長時代は医師探し、経営改善に明け暮れた毎日だった。地域医療を守るため、総合内科医が活躍できる仕組みづくり、機能分化の必要性を強調する。

皇居での拝謁式に参列、「苦労をかけた妻に喜んでもらえた」と目を細める。財政支援にも協力してくれた伊達市に住み続け、恩返ししていく考えだ。